

マンスリー・アウトック(2026/6)

26年9月までの為替相場展望(アップデート2)

本レポートは、26年3月30日配信の「マネースクエア四季報」で提示した26年9月までの為替相場見通しを5月号に続いてアップデートしたものです。

Bloomberg が集計する主要 17 通貨の 5 月における騰落率をみると、南アフリカランドが上昇率 1 位、NZドルが第 2 位、メキシコペソが第 4 位。それらは、米国とイランの交渉進展を期待したリスクオンを反映したのでしょう。米ドルは上昇率 7 位であり、「安全通貨への逃避(=リスクオフ)」というより、株価好調により米ドル建て資産への需要が高まっていた可能性を示しています(VIX 指数「恐怖指数」は 5 月末に 1 月中旬以来の水準に低下)。

26年9月までの予想レンジ

通貨ペア	直近終値(5/29)	予想レンジ
米ドル/円	159.270	155.000 ~ 163.000
ユーロ/円	185.690	180.000 ~ 195.000
ユーロ/米ドル	1.16590	1.11000 ~ 1.23000
ユーロ/英ポンド	0.86648	0.83000 ~ 0.90000
英ポンド/円	214.310	205.000 ~ 220.000
英ポンド/米ドル	1.34560	1.27000 ~ 1.42000
豪ドル/円	114.430	110.000 ~ 120.000
豪ドル/米ドル	0.71846	0.68000 ~ 0.75000
豪ドル/NZドル	1.19980	1.15000 ~ 1.23000
NZドル/円	95.375	90.000 ~ 99.000
NZドル/米ドル	0.59884	0.54000 ~ 0.62000
カナダドル/円	115.470	110.000 ~ 120.000
米ドル/カナダドル	1.37930	1.33000 ~ 1.42000
トルコリラ/円	3.473	3.000 ~ 4.000
南アフリカランド/円	9.816	8.500 ~ 10.500
メキシコペソ/円	9.177	8.500 ~ 10.000
ノルウェークローネ/スウェーデンクローナ	0.99880	0.93000 ~ 1.02000
米ドル/シンガポールドル	1.2766	1.25000 ~ 1.31000

※予想レンジは、担当者個人がファンダメンタルズ分析やテクニカル分析などを基にして独自に判断したものであり、予告なく変更になる場合があります。
 ※最終的な投資判断はご自身で行っていただきますようお願いいたします。

26年9月までの予想レンジ

一部の予想を修正(赤字)

銘柄	直近終値(5/29)	予想レンジ
日本N225(円)	66,221	53,000 ~ 72,000
米国D30(ドル)	51,023	45,000 ~ 55,000
米国NQ100(ドル)	30,341	25,000 ~ 35,000
米国SP500(ドル)	7,579.7	6,500.0 ~ 8,000.0
英国F100(ポンド)	10,379	9,600 ~ 11,600

※予想レンジは、市場調査課が独自に判断しており、予告なく変更になる場合があります。

※最終的な投資判断はご自身で行っていただきますようお願いいたします。

一方で、円は韓国ウォンに次いで下落率で2番目の大きさでした。5月の円は、4月末に実施されたとみられる本邦当局の円買い介入後からスタートして、ジリジリと「円安」が戻ったことを示しています。

6月以降も中東情勢や原油価格をにらんだ相場展開が続くそうです。5月28日に米国とイランが暫定合意したのは、あくまでも停戦の60日間延長です。戦争終結の合意への期待は続くでしょうが、期待だけでいつまでもリスクオンの相場展開となるでしょうか。イランの核開発やホルムズ海峡の封鎖についてどのような形で合意できるのか、できないのか、予断を許しません。また、仮に戦争終結で合意しても、ホルムズ海峡の航行がイラン戦争前の状況に戻り、原油供給が回復するまでには相応の時間がかかるかもしれません。

原油価格の動向は各国金融政策に大きく影響しそうです。原油価格の高止まりによるインフレ圧力は、27年3月まで前年比でみた物価上昇率を押し上げる効果が残存します。逆に、原油価格が比較的早期に下落基調となれば、FRBをはじめ多くの中銀がイラン戦争前の利下げ路線に回帰するでしょう。そうした状況変化が為替相場の先行きを左右しそうです。〈西田〉

【注目のイベント】

- 6月14日 G7 開幕(エビアン、フランス)
- 6月16-17日 ウォーシュ FRB 議長初の FOMC
- 6月30日 日銀審議委員交代(中川⇒佐藤)
- 7月1日 USMCA(米国・メキシコ・カナダ協定)見直し?
- 7月4日 米国建国 250 年
- 8月下旬 ジャクソンホール会議
- 9月7日 米レーバーデー(中間選挙戦本格化⇒11月3日投票)

※ユーロ(対円、対米ドル)やトルコリラ/円、米ドル/シンガポールドルについては、デイリーやウィークリーのレポートをご覧ください。

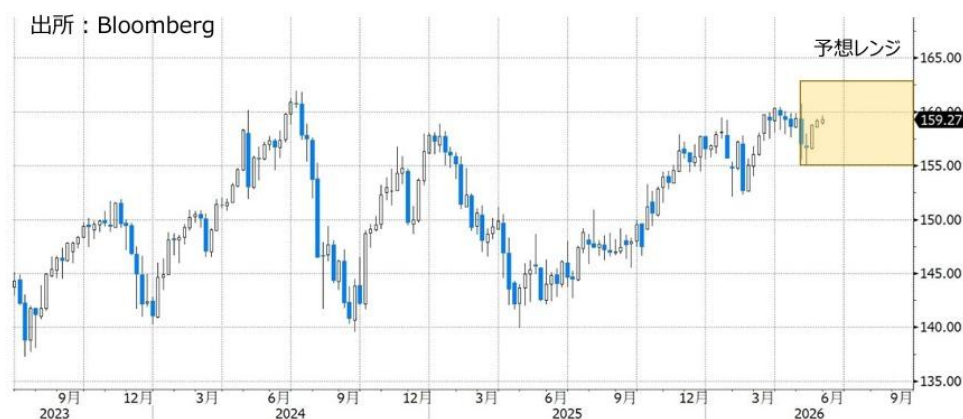
米ドル/円: 155.000 円～163.000 円

本邦当局は4月28日～5月27日の1カ月間で過去最高の11.7兆円の為替介入を実施しました。しかし、米ドル/円は5月6日に155円ちょうど近辺まで下落した後、ジリジリと上昇しており、4月30日以来となる160円を目指す展開となっています。米ドル/円が再び160円に達し、さらにそれを超えて上昇すれば、本邦当局は為替介入に踏み切るでしょうか。5月上旬に訪日したベッセント財務長官は日本の為替介入を容認したとされていますが、水面下では介入に不快感を示して日銀に利上げを求めた可能性もあります。

日銀は次回6月15-16日の金融政策決定会合で利上げするとの見方が有力です。植田日銀が高市政権に忖度せずに利上げに踏み切り、さらなる追加利上げを示唆すれば、米ドル/円に下押し圧力が加わる可能性があります。果たして、日銀にそれができるでしょうか。

米国サイドでは、就任したばかりのウォーシュFRB議長の手腕が注目されそうです。市場は、FRBが当面政策金利を据え置き、「次の一手」は年末ないし27年初めの利上げだとみえています。ウォーシュ議長はトランプ大統領の利下げ要求に抗することができるでしょうか。それとも、原油価格が下落してインフレ圧力が低下、そして(あるいは)米景気が失速するなどして、利下げが適切だと市場が納得する状況がやってくるでしょうか。仮に、ウォーシュ議長が強引に利下げを推進しようとするれば、債券市場から警鐘が寄せられる可能性があります。その場合、長期金利は上昇するでしょうが、米ドルに下押し圧力が加わりそうです。〈西田〉

米ドル/円 (週足、2023/7-)



英ポンド/円: 205.000 円～220.000 円

英ポンド/米ドル: 1.27000 米ドル～1.42000 米ドル

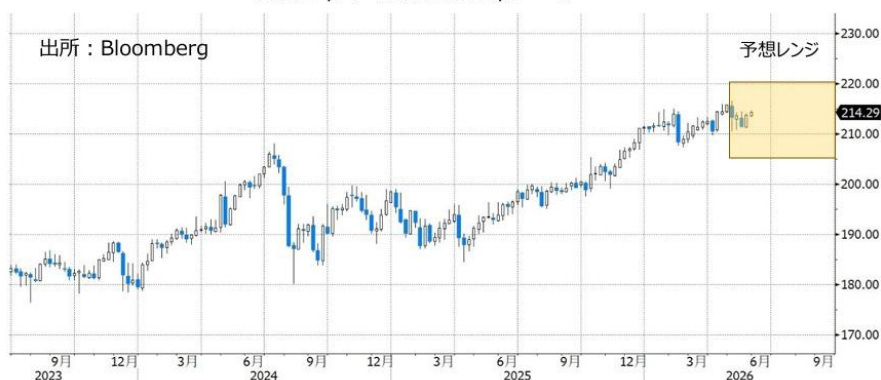
(ユーロ/英ポンド: 0.83000 ポンド～0.90000 ポンド)

英ポンドは過去1年間、対米ドルでは1.30000ドル～1.38000ドルのレンジで推移し、対ユーロでは0.86000ポンド～0.88000ポンドを中心としたレンジで推移してきました。一方、英ポンドは対円では08年9月のリーマンショック以降の高値圏で推移していますが、これは米ドル/円の上昇に連れられた面が大きいでしょう。

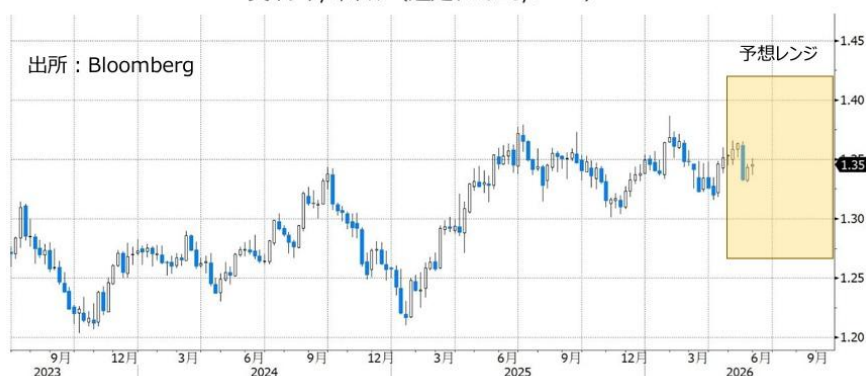
今後、英ポンドが対米ドルや対ユーロで上述のレンジを外れるとすれば、英国の政治不安が大きな要因となるかもしれません。英国での5月上旬の統一地方選挙で与党労働党が惨敗、リフォーム UK が躍進しました。労働党内ではスターマー首相の辞任を求めて党首選を要求する声が高まっています。仮に党首選が実施されて、新たな党首(=首相)が誕生した場合、スターマー首相とリーブス財務相が独自に決めた財政規律は蔑(ないがしろ)にされるリスクがあります。その場合は、市場参加者が22年トラス・ショックの再来(英ポンド・国債・株価のトリプル安)を懸念するかもしれません。

今後、労働党の党首選が実施されるのか、新たな党首(=首相)が誕生するのか、その場合どんな政策が打ち出されるか、興味深いところでしょうか。新たな党首が誕生した場合、29年8月が期限の総選挙が前倒しで実施されるのでしょうか。総選挙となれば、反移民・反EUの極右・リフォーム UK がどこまで議席を伸ばすのか、第1党になる可能性はあるのか、などが注目されます。〈西田〉

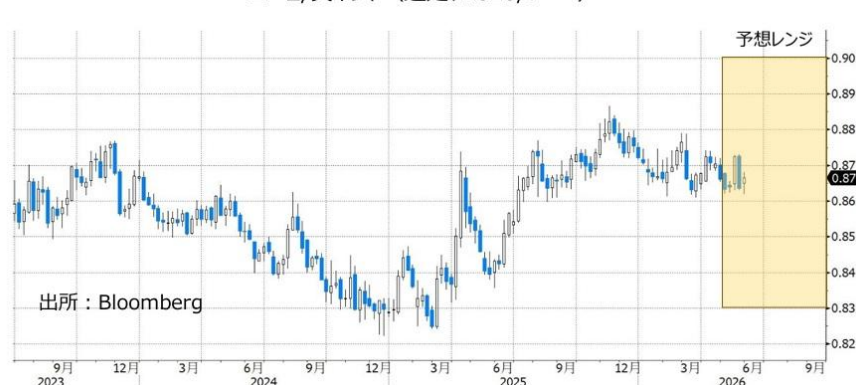
英ポンド/円 (週足、2023/7-)



英ポンド/米ドル (週足、2023/7-)



ユーロ/英ポンド (週足、2023/7-)



豪ドル/円:110.000 円~120.000 円

豪ドル/米ドル:0.68000 米ドル~0.75000 米ドル

豪ドル/NZドル:1.15000NZドル~1.23000NZドル

RBA(豪中銀)は2月・3月・5月と3回連続でそれぞれ0.25%の利上げを実施。5月29日時点のRBAの政策金利は4.35%です。

RBAの利上げはいったん停止されると市場は予想。OIS(翌日物金利スワップ)に基づく、次回6月15-16日と次々回8月の会合で政策金利は据え置かれて、11月か12月のいずれかで0.25%の追加利上げが行われるとの見方が優勢です(5/29時点)。

26年に入り、FRBや日銀、ECB、BOEが政策金利を据え置く一方で、RBAは利上げを継続し、そのことが豪ドルにとってプラスになってきたと考えられます。RBAの利上げ停止観測が一段と強まる場合、豪ドルは対円や対米ドルで上値が重い展開になるかもしれません。FRBの利上げ観測が強まることも加われば、豪ドル/米ドルは下押し圧力が加わる可能性があります。

豪ドルには投資家のリスク意識を反映しやすいという特徴があります。中東情勢をめぐる懸念が後退するなどしてリスクオン(リスク選好)が強まる場合、豪ドルのサポート要因になりそうです。

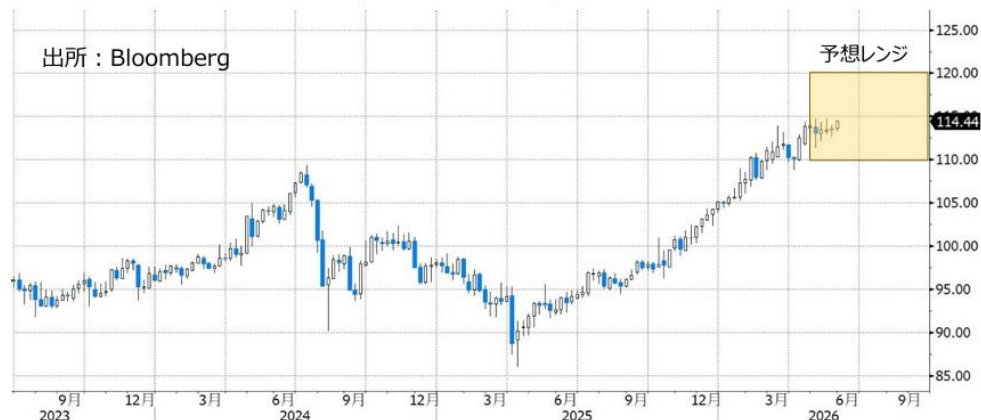
対米ドルでの円安への本邦当局の対応にも注目です。本邦当局が米ドル売り・円買い介入に踏み切れば米ドル/円が大きく下落し、対円の通貨ペアである豪ドル/円もそれに引きずられると考えられます。

【豪ドル/NZドル】

RBAとRBNZ(NZ中銀)の先行きの金融政策に関する市場の見方を踏まえると、豪ドル/NZドルには下落圧力が加わりやすいと考えられます(*RBNZの金融政策の詳細はNZドルの項をご参照ください)。

<八代>

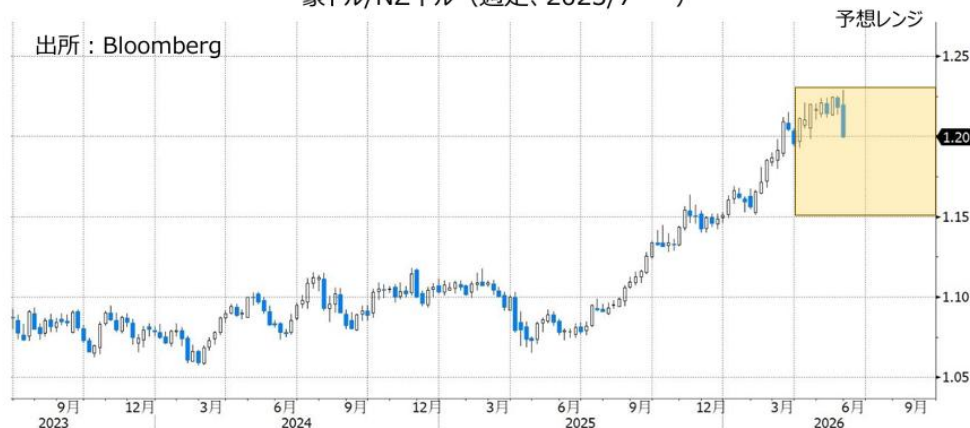
豪ドル/円 (週足、2023/7-)



豪ドル/米ドル (週足、2023/7 -)



豪ドル/NZドル (週足、2023/7 -)



NZドル/円: 90.000 円~99.000 円

NZドル/米ドル: 0.54000 米ドル~0.62000 米ドル

RBNZ (NZ 中銀) は 5 月 27 日の政策会合で政策金利を 2.25% に据え置くことを決定。ただ、その決定は 3 対 3 の同数となり、ブレマン総裁やシルク総裁補、コンウェイ・チーフエコノミストの 3 人は政策金利の据え置きを、残りの 3 人は 0.25% の利上げを行うことを支持。ブレマン総裁が最終的に政策金利の据え置きを決定しました。

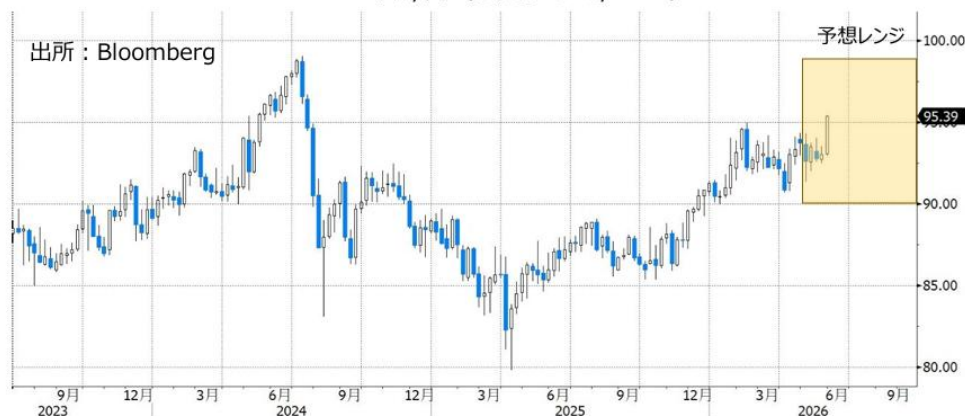
市場では同中銀による利上げ観測が強まっており、OIS (翌日物金利スワップ) に基づけば、RBNZ は次回 7 月 8 日の会合で利上げを開始し、12 月末までに 0.25% の利上げを 3 回行うとの見方が優勢です (5/29 時点)。RBNZ の会合は 12 月末までにあと 4 回 (7 月、9 月、10 月、12 月) 開催されます。

RBNZ の利上げ観測が今後一段と強まる場合、NZドルが堅調に推移して、NZドル/円や NZドル/米ドルは上値を試し、豪ドル/NZドルは下値を試す展開になりそうです。NZドル/米ドルについては、FRB の利上げ観測が強まるようであれば、伸び悩む可能性があります。

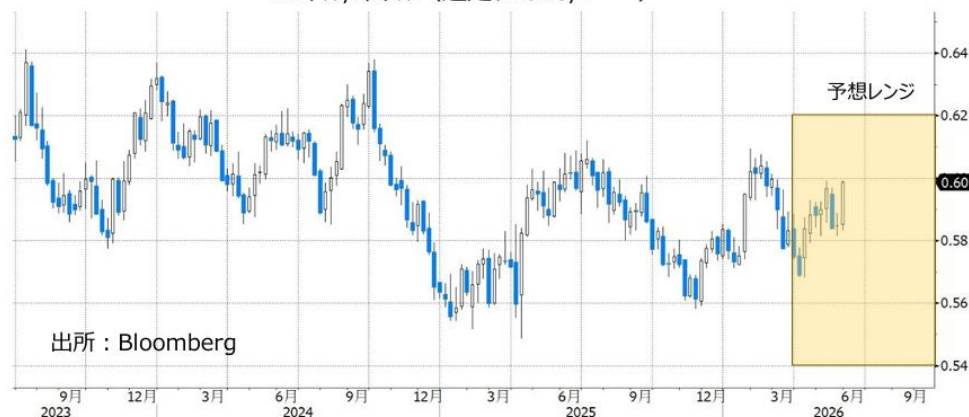
豪ドルと同様、NZドルは投資家のリスク意識を反映しやすいという特徴があり、リスクオン (リスク選好) が強まることは NZドルにとってプラスです。

本邦当局が米ドル売り・円買い介入を実施すれば、米ドル/円が下落しそう。その場合、NZ ドル/円は米ドル/円に引きずられると考えられます。＜八代＞

NZドル/円（週足、2023/7- ）



NZドル/米ドル（週足、2023/7- ）



カナダドル/円：110.000 円～120.000 円

米ドル/カナダドル：1.33000 カナダドル～1.42000 カナダドル

BOC(カナダ中銀)は 25 年 10 月に利下げを実施した後、前回 4 月まで 4 会合連続で政策金利を 2.25%に据え置きました。

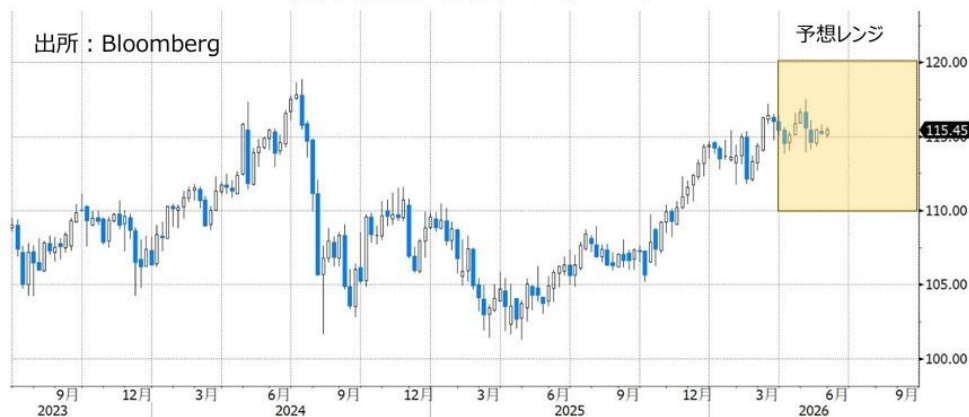
市場は、BOC の利下げは打ち止めで、次の一手は利上げになるとみています。OIS(翌日物金利スワップ)に基づくと、BOC は 12 月末までに 0.25%の利上げを 1 回(タイミングは 10 月か 12 月?)行うとの見方が優勢です(5/29 時点)。BOC の利上げ観測が今後強まれば、カナダドルにとってプラスになると考えられます。

原油価格の動向にも注目です。原油価格の上昇は本来、産油国の通貨であるカナダドル高要因と考えられます。ただ、米ドル/カナダドルについては、原油価格の動向以上にリスクオン/オフや、FRB の先行きの金融政策に関する市場の見方の変化により影響を受けやすい傾向がみられます。リスクオフや FRB の利上げ観測が強まる場合、米ドル/カナダドルは底堅く推移する可能性があります。

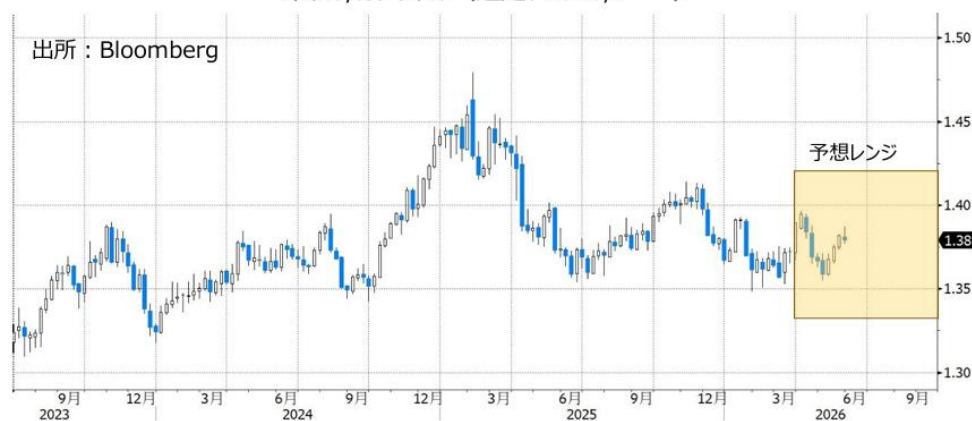
7 月に期限を迎える USMCA(米国・メキシコ・カナダ協定)の共同見直しも注目されます。3 カ国が

USMCA の延長で合意すれば協定は 42 年 7 月まで延長される一方、合意できなければ 1 年ごとの年次見直しへと移行します。延長で合意できなかった場合、協定の先行き不透明な状況が続くことからカナダドルにとってマイナスになるかもしれません。米国とメキシコは 3 月から 2 国間協議を開始しているものの、カナダとの協議は 3 月以降ほとんど行われていないようです。〈八代〉

カナダドル/円 (週足、2023/7-)



米ドル/カナダドル (週足、2023/7-)



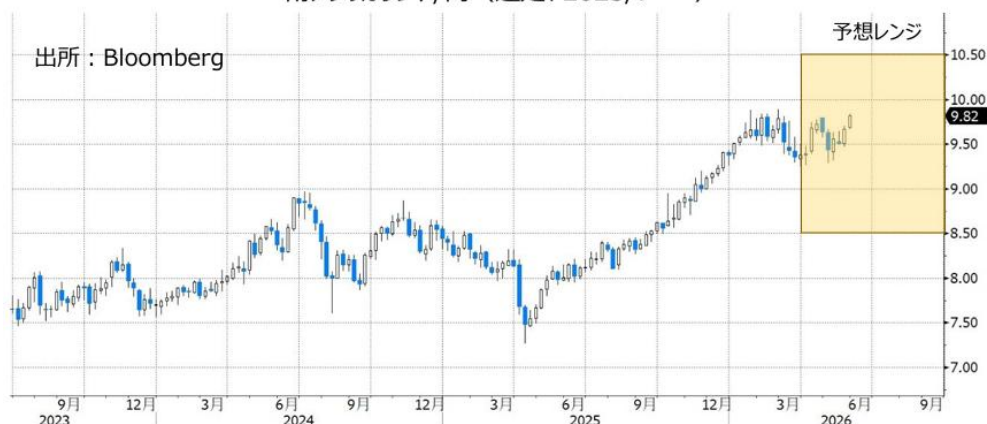
南アフリカランド/円:8.500 円~10.500 円

SARB(南アフリカ中銀)は前回 5 月の政策会合で 0.25%の利上げを行うことを決定。政策金利を 6.75%から 7.00%に引き上げました。SARB による利上げは 23 年 5 月以来 3 年ぶりです。会合では、より大幅な 0.50%の利上げをすることも議論されました。

南アフリカではインフレ圧力が強まっており、同国の 4 月 CPI(消費者物価指数)は総合が前年比 4.0%、コアが同 3.6%と、上昇率はいずれも前月(それぞれ 3.1%と 3.2%)から加速し、SARB のインフレ目標である 3%(2~4%が許容レンジ)を一段と上振れました。中東情勢や原油価格の動向次第では、SARB は今後追加利上げを行う可能性があります。追加利上げ観測が強まる場合、南アフリカランドは堅調に推移しそうです。

南アフリカランド/円については、対米ドルでの円安への本邦当局の対応にも注目です。本邦当局が米ドル売り・円買い介入を実施すれば、南アフリカランド/円は米ドル/円の下落に引きずられるとみられます。〈八代〉

南アフリカランド/円 (週足、2023/7-)



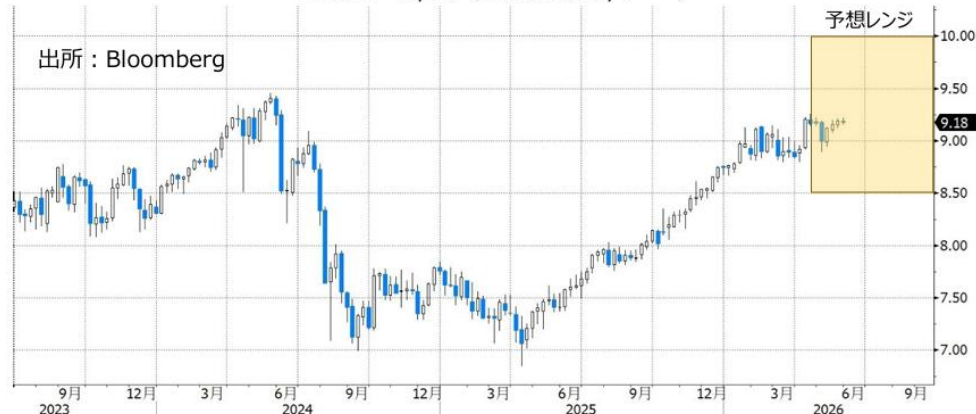
メキシコペソ/円: 8.500 円 ~ 10.000 円

BOM(メキシコ中銀)は前回5月の政策会合で0.25%の利下げを行いました。その一方、声明で「24年3月に開始した利下げサイクルを終了することが適切だと判断した」、「今後については、政策金利を(6.50%)に維持することが適切だと判断している」と表明。利下げ打ち止めを明言するとともに、政策金利を当面据え置く方針を示しました。

市場では、日銀やFRB、ECB、BOEの利上げ観測があります。ただ、それらの中銀が実際に利上げを行ったとしても、そのペースが緩やかであれば、BOMの政策金利の水準が高い状況は大きく変化しないと考えられます。金融政策面からみれば、メキシコペソは堅調に推移しそうです。

カナダドルと同様、原油価格の動向やUSMCA(米国・メキシコ・カナダ協定)の共同見直しにも注目。原油価格が堅調に推移すれば産油国の通貨であるメキシコペソにとってプラスになりそうです。ただし、USMCAの延長で3カ国が合意できなければ、メキシコペソの上値を抑える要因になる可能性があります。〈八代〉

メキシコペソ/円 (週足、2023/7-)

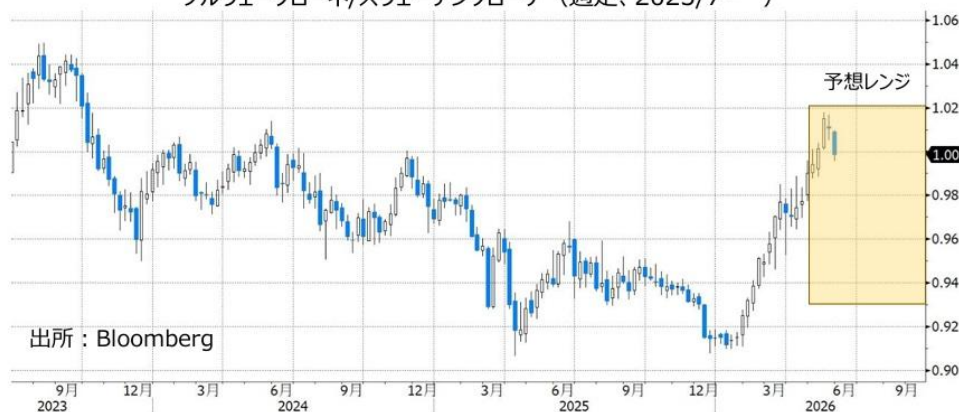


ノルウェークローネ/スウェーデンクローナ:0.93000S クローナ~1.02000S クローナ

ノルウェークローネ/スウェーデンクローナ(以下、NOK/SEK)は、26年2月以降に堅調に推移してきました。2月はリクスバンク(スウェーデン中銀)とノルゲバンク(ノルウェー中銀)の金融政策見通しの差が顕著になってきたこと、3月以降はイラン戦争で原油価格が急騰したことなどが背景です。また、5月上旬にノルゲバンクがサプライズで利上げを実施したこともNOK/SEKにプラスに働いた可能性があります。

今後については、引き続き原油価格の動向次第の面はあるものの、米国とイランがいずれ戦争終結で合意するとの前提で原油価格にピーク感が出てきたこと、さらにはリクスバンクが利上げに向けて準備を始めるとみられることなどから、NOK/SEKには下落圧力が加わる可能性が高そうです。〈西田〉

ノルウェークローネ/スウェーデンクローナ (週足、2023/7-)



今週の主要経済指標・イベント

		当社予想	市場予想	前回値
6月1日	【NZ】祝日(国王誕生日) 【シンガポール】振替休日(ベサックデー)			
	23:00 【米】ISM製造業景況指数(5月)	52.0	53.0	52.7
6月2日	18:00 【ユーロ圏】CPI速報値 前年比(5月)	3.2%	3.2%	3.0%
	【ユーロ圏】CPIコア速報値 前年比(5月)	2.3%	2.4%	2.2%
	23:00 【米】JOLTS(労働動態調査)求人件数(4月)	675.0万件	685.7万件	686.6万件
6月3日	10:30 【豪】GDP 前期比(1-3月期)	0.5%	0.5%	0.8%
	21:15 【米】ADP雇用統計 前月比(5月)	9.0万人	11.8万人	10.9万人
	23:00 【米】ISM非製造業景況指数(5月)	53.0	53.9	53.6
	27:00 【米】ページブック(地区連銀経済報告)			
6月4日	15:00 【スウェーデン】CPI速報値 前年比(5月)	0.5%	0.5%	-0.1%
	【スウェーデン】CPIF速報値 前年比(5月)	1.2%	1.3%	0.8%
6月5日	16:00 【トルコ】CPI 前年比(5月)	32.60%	32.50%	32.37%
	21:30 【米】非農業部門雇用者数 前月比(5月)	8.0万人	8.9万人	11.5万人
	【米】失業率(5月)	4.4%	4.3%	4.3%
	21:30 【カナダ】雇用者数 前月比(5月)	0.80万人	1.00万人	-1.77万人
	【カナダ】失業率(5月)	6.9%	6.9%	6.9%

市場予想はBloomberg、6月1日9:00現在。発表日時は日本時間。

<執筆者>

執筆者プロフィール



西田 明弘 (にしだ あきひろ)

チーフエコノミスト

日興リサーチセンター、米ブルッキングス研究所、三菱UFJモルガンスタンレー証券などを経て、2012年マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）入社。

米国を中心とした各国のマクロ経済・金融政策・政治動向の分析に携わる。

「アナリスト、ストラテジスト、エコノミスト、研究員と呼び名は変われども、30年以上一貫してリサーチ業務を行ってきました。長い経験を通じて学んだことは、金融市場では何が起きてても不思議ではないということ。その経験を少しでも皆さんと共有したいと思います。」

執筆者プロフィール



八代 和也 (やしろ かずや)

シニアアナリスト

2001年ひまわり証券入社後、為替関連の市況ニュースの配信、レポートの執筆などFX業務に携わる。2011年、マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）に入社。

豪ドル、NZドル、カナダドル、トルコリラ、南アフリカランド、メキシコペソを中心に分析し、レポート執筆のほか、M2TV出演、セミナー講師を務めている。

【プロフィール】 広島県出身。

【趣味】 野球・サッカー観戦。

【一言】 より分かりやすくタイムリーなレポートを心掛けています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したのですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
